子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル：

Effect estimate of time-varying social support and trust on the physical and mental health of mothers at 2.5 years postpartum: The Japan Environment and Children’s Study (JECS)

和文タイトル：

経時的に変化するソーシャルサポートおよび地域住民や人に対する信頼感が産後 2.5 年時の母親の身体的および精神的健康に与える効果の推定：エコチル調査

ユニットセンター（UC）等名： 富山ユニットセンター

サブユニットセンター（SUC）名：

発表雑誌名： Journal of Epidemiology

年： 2021　　DOI： 10.2188/jea.JE20210134

筆頭著者名： 松村　健太

所属 UC 名： 富山ユニットセンター

目的：

我々は先行研究で、ソーシャルサポートおよび地域住民に対する信頼感が豊かであると、特に精神面で妊婦の健康状態が良好になることを報告した。本研究ではさらに調査時点を追加し、妊娠中と産後 2.5 年時のソーシャルサポートおよび地域住民や人に対する信頼感が産後 2.5 年時の妊婦の精神・身体的健康に及ぼす影響を調べた。

方法：

90,071 人の妊婦を対象とした。精神・身体的健康は、妊娠中および産後 2.5 年時に SF-8 質問票を用いて数値化した。ソーシャルサポートと信頼感の有無は、9 項目の質問（Q1-9）を用いて SF-8 と同時に調査した。各質問について、周辺構造モデルを用い、「もしソーシャルサポートや信頼感が欠如していたらどうなっていたのか？」という反事実仮定に基づく因果推論を行い、その効果を推定した。

結果：

妊娠中および産後 2.5 年時の双方でソーシャルサポートや信頼感がある状態を基準とし、精神・身体的健康得点の効果推定値を算出した。その結果、「親しい友人や隣人」が産後 2.5 年時のみ存在しなかった場合には、精神的健康に関する得点は 6.23 点（双方で存在しなかった場合は 3.98 点）低かった。また、「精神的な支えとなる人」が産後 2.5 年時にのみ存在しなかった場合も 4.94 点（双方で存在しなかった場合は 4.85 点）低かった。身体的健康に関する得点は、これらの欠如による大きな影響は認められなかった。

考察（研究の限界を含める）：

本研究の結果より、出産後におけるソーシャルサポートおよび地域住民や人に対する信頼感が、特に精神的な健康状態を良好に保つために重要であることが明らかとなった。このことより、産後数年に渡って母親をサポートし続けることの重要性が強調された。本研究の限界としては、健康状態の評価を自己回答に頼っていること、近年のテクノロジー発展に即したコミュニケーション方法を確認していないこと、出産後 2.5 年までしか追跡していないこと、観察研究であるため因果関係を結論づけるまでには至っていないこと、などが挙げられる。

結論：

本研究の結果より、妊娠中に存在していた母親に対するソーシャルサポートおよび地域住民や人に対する信頼感が産後になくなってしまうと、特に精神面で母親の健康状態が悪化する可能性が明らかとなった。